

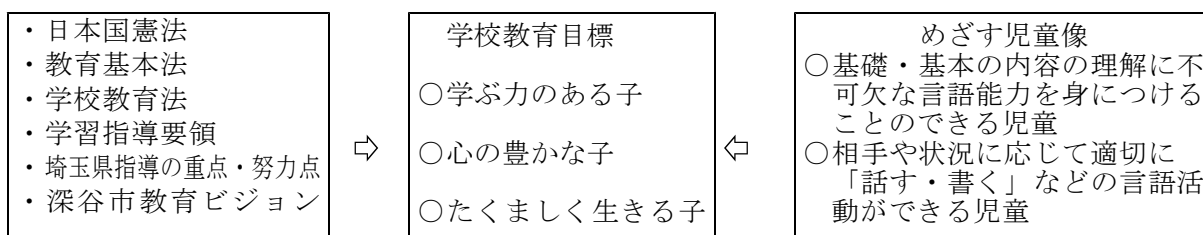
平成23年度校内研究計画

1 研究主題

言語活動の充実をめざして －言語活動例を生かした国語指導－

2 研究主題設定の理由

(1) 学校教育目標との関わりから



(2) 児童の実態から

本校の児童は、「埼玉県学力学習状況調査」や「3つの達成目標効果の検証テスト」の結果から、「聞く能力」や「書く必要のある事柄を選ぶ」などの基本的な技能は身につけているが、「学ぶ意欲が不十分である」「読解力、表現力が十分に身につけていない」という課題が見えてきた。学校で実施しているアンケートでも、「作文」や「発表」があまり好きではないという結果であった。また、普段の児童の様子からも、自分の気持ちが相手にうまく伝えられないためにトラブルを起こしたり、必要なことをきちんと伝えられなかったりする様子が見られる。

一方、児童は読書に親しむ様子が見られ、月曜日の朝読書の読み聞かせを楽しみにしていて、図書室の本の貸し出し数も増加している。

(3) 言語活動の重要性

児童の思考力、判断力、表現力等をはぐくむためには、基礎的・基本的な知識及び技能の活用を図る学習活動を重視するとともに、言語に関する能力の育成を図る必要がある。そのために、言語環境を整え、様々な場面で言語活動を充実する必要がある。

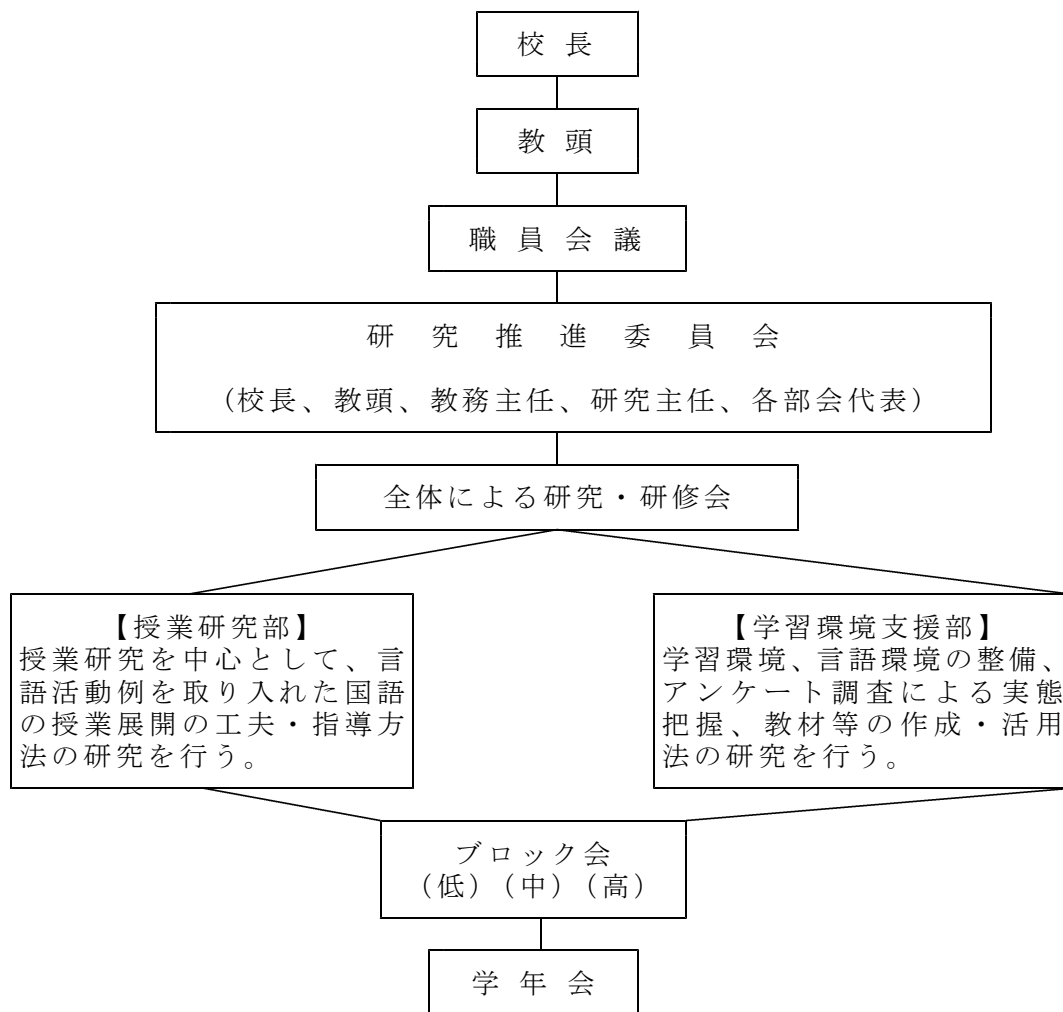
3 研究の仮説

- (1) 言語活動を充実させることにより、児童が意欲的に学習に取り組むことができるであろう。
- (2) 意図的に言語活動の場を設定することにより、言語に着目し、言語を活用し、児童一人一人に基礎的な知識・技能、表現力等の学力を身につけることができるであろう。

4 研究の手だて

- (1) 言語活動例を取り入れた授業を工夫する
- (2) 日常指導の充実と学習環境づくりを進める。
- (3) 年間指導計画の中に言語活動例を位置づける。
- (4) 家庭学習の推進と家庭・地域との連携を進める。
- (5) アンケートを実施する。

3 研究の組織



部会名	主な研究内容
授業研究部	①言語活動例を取り入れた指導案作り ②言語活動の充実のための具体案作り ③授業改善のための手だての工夫 ④学年間での共通化・重点化の工夫 ⑤年間指導計画の見直し
学習環境支援部	①学習を支える力のリストアップ ②視写力や音読の充実に向けて ③学習環境や言語環境の整備 ④家庭との連携 ⑤アンケート調査や考察

※低、中、高、けやき・ひまわり、担任外（養護）で分かれる。